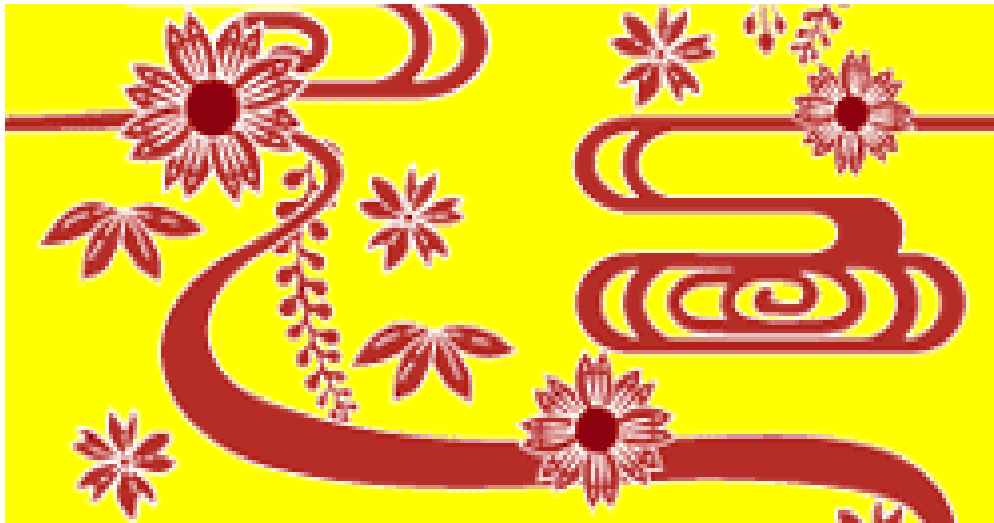


株式会社一球さん 特別レポート

「なぜ、骨壺に水がたまるの？」



「なぜ、骨壺に水がたまると？」

骨壺に水が溜まるのはご存知ですか？…この質問を投げかけたら、ほとんどの方が知らないと答えます。一度お墓に納めた骨壺は、余程のことが無い限り、見たり触ったりすることはないので知らないと答えるのも致し方が無いかも知れません。

当社が取った街頭アンケート（資料No.5）では、8割の方が知らないと答えました。逆を言えば**2割の方はその実体験をしているのです**。その実体験者は、特定の地域に限らないのです。日本全国で実例として取り上げられ、頭を悩ませているのです。

インターネットで「骨壺 水」で検索すると、これら体験者の声をいくつも見るができます。時間ある際に、インターネットにて御覧下さい。様々な方が骨壺に水が溜まっているのを確認しております。その要因をしっかりと理解されている方もおれば、中には遺骨から水が出ていると、勘違いをされている方もおります。

実際この体験者たちは、その後どのような対応をされたのかつかめないところもありますが、一部、骨壺を素焼きに変えた以外は、恐らく水をこぼしそのまま骨壺をお墓へ戻されたのではないのでしょうか。その対応策があれば、葬儀社の方も墓業者の方も提案できるでしょうが、これまではそれが無かったのです。**骨壺に水が溜まるのは仕方のないことだと、片づけるしかなかったのです。**

唯一あるとすれば、骨壺の底に穴を開ける方法を取った方もいると思います。この方法を提案した石屋さんがおりましたが、数年後これもだめだと訂正された方がおりました。実は、この穴に草が伸びてきて、草の根と遺骨がごっちゃ混ぜになり違う問題に発展し、施主からお叱りを受けたとのことでした。

また、この穴からアリが入って骨壺全体がアリの巣になったケースもあります。この事例は皆様も見たことあるのではないのでしょうか？お墓の移転の際に良く経験します。骨壺からアリの行列が外へ向かって連なっている光景が見られます。

結果的に穴を開けることが、水が溜まらないようにはなるかも知れませんが、違う問題を誘発してしまいます。根本的に、水が溜まる要因をきちんと捉えていないことが、このような結果になってしまうのです。

一体、**なぜ骨壺に水が溜まるのか？**をここで説明いたします。

そう、原因は「**結露**」なのです。

私達のまわりにある空気には、水分が含まれており湿り空気と呼ばれています。その空気は次のような成分で構成されています。

窒素75%、酸素23%、アルゴン1%、炭酸ガス0.03~0.04%、



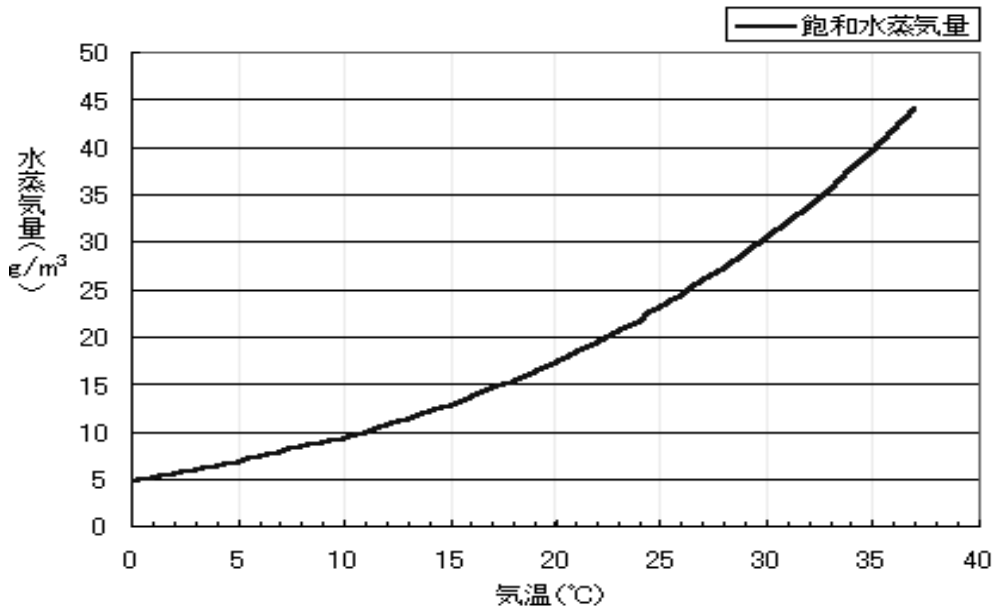
骨壺に水が溜まっている様子

水分 1%です。

この水分 1%が結露の原因となるのです。

次の表は、空気の飽和水蒸気量を表した曲線です。

気温によって空気の中に含まれる水蒸気の量を表しています。



気温(°C)	飽和水蒸気量 (g/m³)
30	30.4
25	23.1
20	17.3
15	12.8
10	9.4
5	6.8

例えば、昼間の気温が 20°C とします。20°C では 17.3 g の水蒸気が含まれます。日が暮れて気温が下がり 15°C になったとします。15°C では 12.8 g しか水蒸気を含むことができません。そうすると $17.3\text{ g} - 12.8\text{ g} = 4.5\text{ g}$ の水蒸気が水になるのです。

このように気温の変化によって、骨壺の中の水蒸気が水になると考えられます。

また、骨壺の中と外の気温差によって骨壺内側に結露が発生し、水になることも考えられます。

昼間は骨壺の中も外も同じような気温でも、夜になると外の気温が下がることで、内側の熱が外へ移動しようとしてします。その際に、骨壺内に水分が取り残され、これが結露となるのです。微量ですが、ある程度年数を重ねると骨壺一杯になることも多々あります。

結露を防止するには、どうしたら良いのか？

これを見つけるために、2年半の歳月をかけやっと十二支守り本尊の商品化にこぎつけました。

結露を防止するには、骨壺内の温度を上げるようにすることと、骨壺内の水蒸気量を必要以上に増やさない方法を取りました。



骨壺内の温度を上げるためには、内側に炭漆喰で特殊コーティングをしました。この炭漆喰は断熱効果があり、外の気温がいくら変化しても内側に影響しないため、ある一定の気温を保てるので結露が発生しないのです。



更に、炭漆喰のもう一つの特徴として、調湿効果があるのです。湿度が高ければ湿気を吸着します。逆に乾燥している時には、その水分を放出して、常に快適な環境が保たれるのです。

他にも炭漆喰には、脱臭効果、遠赤効果、マイナスイオン効果があり、まさに鉄人的な断熱素材なのです。

骨壺内の水蒸気量を増やさないためには、骨壺本体と蓋の間にシリコンをコーティングしました。集骨後蓋を閉めると、このシリコンはパッキンの作用をします。外部からの水蒸気を完全に抑制することができるので、結露がより発生しない環境になるのです。



納骨の際、骨壺はどのように安置されていますか？

箱から出しそのまま地べたに安置されるのが、一般的でしょう。大事な御遺骨をそのまま地べたに置くのに抵抗ある方は、座布団代わりに板石を置いたり、ブロックを置いたりされる方もおります。中には草履を置いて、その上に骨壺を安置する方もおります。



今回、御遺骨を敬う意味で「骨壺台座」を開発しました。少しでも仏様により良い環境を整えて上げたい気持ちを形にしてみました。デザインは、守り本尊が禅を組んでいる台座と同じ八角形にしました。

実はこの台座は、座布団の役割だけでなく、結露対策にもなっているのです。地表からの冷たい冷気が骨壺に伝わらないように、断熱の効果もあります。地表から5cm上げて、中を空洞化することで、空気が流れるようになっています。素材は赤瓦と同じ断熱素材を使用しています。

最後に街頭アンケートからわかったこと。

街頭に飛び出し、無作為に100名の方に骨壺についてのアンケートを取りました。男女ちょうど半分で、年齢層は30代から80代の方に聞き取りをしました。結果次のようなことがわかりました。

1. 「骨壺に水が溜まる？」の知らない方は78人で、約8割になります。逆に2割の方は知っていて、骨壺を持ち上げた時にその重さで知った、との回答をされた方もありました。葬儀社の方でも知らない方もおりますので、致し方が無いかも知れません。

2. 「水が溜まらない骨壺」があれば欲しいと思いますか？の答えとしては、何と93人でした。ほとんどの方がそのように知れば欲しいとの答えです。大事な仏様に快適な環境を与え、成仏して頂くためにもこのような商品ができましたので、葬儀社さんやお墓屋さんの皆様には積極的な提案をぜひして頂きたいと思えます。

3. 「骨壺台座」はあった方が良くと思う方は88人でした。やはり故人を思う気持ちはどなたも同じで、無下にしたくないと考えるのが常識的でしょうね。先に納めた祖先も同様にして上げるときっと感謝されると思えます。

4. デザインでは、当社の「十二支守り本尊」が75人に評価を頂きました。見守られている感じがする。絵を見ていると心が安らぐ感じがする。などの意見を頂きました。これまでのデザインと違い、やはり故人と関わりのある守護仏であることが良かったようです。

5. 十二支守り本尊が評価を受けたもう一つの理由には、「水が溜まらない骨壺」であることを

知った上での評価もありました。デザインも重要視しますが、機能性も提案することで、高い評価を受けることがわかりました。

以上のように、骨壺に水が溜まる理由と対策についてまとめさせて頂きましたが、「百聞は一見にしかず！」の言葉があるように、ぜひ実際の商品を見て頂きたいと思います。また、機会がありましたら、皆様のお墓の骨壺がどのようになっているか？も一度確認を取って頂ければと思います。

当社では、骨壺の点検や交換も業務として行っていますが、今回「十二支守り本尊」発売記念として先着20名様限定！骨壺交換料(20,000円)を無料で対応させて頂きます。但し、沖縄本島内に限ります。それ以外の方は、交通費の負担をできましたらお願いいたします。

関心を持たれている方はかなりおりますので、ご希望の方は下記へ今すぐお電話ください。

株式会社一球さん 沖縄県豊見城市字真玉橋40番地	電話098-963-5036
--------------------------	----------------

申込みの際には、施主様の干支や希望日を確認し、判断を取ってから対応させて頂きますので、よろしく申し上げます。

この商品を通して「骨壺に水が溜まる」で、悩んでいるたくさんの方のお手伝いできればと思います。どうぞ、末永くご愛顧いただきますよう、よろしく申し上げます。(合掌)

株式会社一球さん
代表取締役 金城 一